



おうたく
 王鐸（明・一五九二〜一六五二）を
 もとにして倣書で書いています
 王鐸は行書軸、草書軸が数多く
 残っており、連綿作品を書く時には
 欠かせない古典である

せきえいそうじょう あまね
 夕影曾城に遍し

夕陽が城門や宮殿を余すところなく
 照らしだしている
 （随・薛道衡の詩より）